

みつぎ便り

109号
10月号

板橋区役所みどり公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成27年10月1日 <http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

キンケハラナガツチバチ

公園で花壇の手入れ作業をしていると、白いニラの花にアシナガバチ？いやチョット違う！調べてみると、キンケハラナガツチバチのオスということが解ったので紹介します。色々調べてみると、ハチの仲間とは思っていた以上に種類が多く捜すのに苦労しました。

オスの大きさは2センチ前後で、腹部は光沢の黒に淡黄色の帯模様が4本見られ、名前のようにからだ全体に金色の毛が生えています。
メスの腹部は黒色で黄色の帯はなく金毛が帯のように生えて



います。頭と胸部、脚にも金毛が密生していますがメスの方が顕著です。

攻撃性は低く、手で捕まえたりしなければ刺したりすることはないようです。生息域は広く本州、四国、九州以西で分布しています。山地、市街地など広く見ることが出来ます。乾いた崖などの土の中に穴を掘り、コガネムシなどの幼虫などを探し卵に産卵する。また、メスは土の中で越冬するようです。

公園でも花壇に咲いている花の蜜などを求め、四月～十月位まで見ることが出来ます。(圭)

センニチコウ (千日紅)

赤やピンク、白などの丸くかわいらしい花をつけるセンニチコウ。数は多くありませんが、ボート小屋近くの花壇に咲いています。ヒユ科センニチコウ属の一年草で千日草(センニチソウ)とも呼ばれています。原産は熱帯アメリカですが江戸初期に日本に渡来し、中期にはドライフラワーとして利用されたという記録もあって、親しまれています。仲間は多いのですが、



園芸品種としてはセンニチコウと近縁種のキバナセンニチコウ(ストロベリーフィールド)の二種類だけです。この花名は、百日も咲き続けると言われるサルスベリ(百日紅)より花期が長いからとか、花もちが良くて千日も色あせしないから付けられたとも言われています。花言葉は変わらぬ愛、不朽という由来も同じです。もともと乾燥に強く、簡単にドライフラワーが出来ますので、ヨーロッパでは「永久花」として冬の飾りとしていたり、墓地に捧げる花として用いられてもいるようです。(利)